

大阪府知事 橋下 徹 様

## 橋下知事に暴言の撤回、関係者への謝罪、無法行為の中止を求めます

この数日間だけをみても、府民の常識からは信じがたい知事の暴言、無法行為がつづいています。「全国一斉学力調査」の問題では、「調査結果非公開なら府教委は解散、小中学校課はいらない」「あのクソ教育委員会のメンバーが過度な競争が生まれるという理由で発表しない」「非公開の市町村には小学校35人学級などの費用を出す必要はない」と述べ、保護者や府民の声を代表して35人学級存続運動にとりくんできたPTAにたいしても「形骸化しており、いっぺん解体して、新しい組織づくりをしないといけない」などと述べました。

さらに許しがたいのは、私設秘書を使って、府が中央図書館への移転を計画している府立国際児童文学館の職員や利用者の状況をビデオで「隠し撮り」していたことです。知事はこの無法行為を反省するどころか、「(他の施設も)いろいろと撮ってくるようにする。努力している所と、していないところが明らかになる」とさえ述べています。

一連の橋下知事の言動は、「府政改革論議に一石を投じる」というものではなく、自分の方針、主張に同調しないものを敵視し、法や制度を無視して、それらを力づくで押さえ込もうとするものです。「反対意見を封じ込めるためには手段を選ばず」というやり方は、府政の「改革」とは正反対の「恐怖政治」「暴君政治」であり、知事としての資質、資格が問われる問題です。

知事の一連の暴言、無法行為は、大阪の子どもたちがすこやかに成長することをめざすすべての教育関係者の努力に水をさし、府政のたてなおしをねがう府民の失望と怒りをひきおこすものです。

大阪教職員組合は、大阪の教育に大きな責任を負うものとして、また橋下知事とは対等の労使関係にあるものとして、この重大事態を黙過することはできません。知事にたいし、一連の暴言を撤回し、府民および関係者に謝罪するとともに、府立施設の隠し撮りなどの無法行為を直ちに中止することを強く求めます。

2008年9月8日

大阪教職員組合  
中央執行委員長 辻 保夫